

ブルガダ症候群

3. 臨床像

① ブルガダ型心電図のコーブド型Type 1がV₁~₃誘導の一つ以上に認められることに加え

- ① 多形性心室頻拍やVFが記録されている。
- ② 45歳以下の突然死の家族歴がある。
- ③ 典型的タイプ1の心電図の家族がいる。
- ④ EPSで多形性心室頻拍・VFが誘導される。
- ⑤ 失神や夜間の苦悶様呼吸を認める。

のうち一つ以上を満たす。

② ブルガダ症候群は日本人の0.15%で認められ罹患率は男性が女性の約9倍で20歳代より発症し、30歳代でピークとなる。

突然死（SD）の家族歴や失神などの症状がある場合は予後不良であるがそれ以外の予後は比較的良好である。

③ 心事故はタイプ1のコーブド型で

- ① SDの家族歴がある場合
- ② 失神発作が認められる場合
- ③ ECGでVFを指摘されたことがある場合

などで発生し、それ以外ではほとんど認められない。

④ ほとんどのBr sは無症状であり、健診で指摘された症例の基本的方針としては、無症状であれば積極的に治療する必要はないと考えられる。